

【2025 年度（令和 7 年度） 自己評価結果報告書 】

2026 年 3 月作成
学校法人飯倉学園
飯原保育園

1. 本園の概況

組織の目的

学園の経営理念（ポリシー）

時代の流れを的確につかみ、未来を担う子どもたちの健全な育成を目指し、満足できるサービスを提供することにより、地域社会に貢献してまいります

学園の経営目標（ビジョン）

地域に欠かすことのできない 100 年続く学園の想設

学園の経営方針（ミッション）

1. 「子ども」第一主義で行動する
2. 「教育・保育」を通じて子どもの成長を促す
3. 「保護者」のニーズを的確に受け留める
4. 「人的・物的環境」の整備徹底を行う

保育園の教育理念（教育・保育目的）

真の「生きる力」をもった人物を育成

保育園の教育・保育目標（基本方針）

1. 心と身体と知恵の保育（強い心、元気な身体、考える力を持つ子ども）
2. 心の触れ合う保育（友達を思いやり、人とのつながりを大切にする子ども）
3. 家庭と連携する保育（家庭との連携の中で情緒が安定した子ども）

保育園の教育・保育方針（教育・保育内容）

たくましい体力づくりと音楽を通じて情操教育で調和のとれた保育を実践

今後重点的に取り組む目標、計画

認定こども園の教育要領の内容を確認し、教職員の共通理解を図り、教育・保育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園としての中・長期のビジョンを明確化し、認定こども園が今後担う役割について検討する。

2. 今年度の取り組み

課題 1	具体的な取り組み方法
指導計画について	作年から変更した、短期計画、長期計画が果たして飯原保育園としての指導計画として問題なかったのか、子どもの成長を計画的に立案できていたかを検証し、細かな記載方法や内容を見直していった また、個別配慮の必要な園児の指導計画と合わせて、会議等での情報共有を細やかにやり、全職員が配慮の必要な子の対応ができるように努めていった

課題 2	具体的な取り組み方法
教師の資質指導向上にむけて	今年度は6Sの作法について、自らの挨拶、笑顔、歩行、手差し、お辞儀など、日頃の生活の中での対応を注視して、人としての資質の向上を目指していった。また保育者として、保育教諭として更なる質の向上を目指すべく、正規職員はキャリアアップの為に必要な研修を全員が取得するように受講を重ね、保育の現場で活かせるように努めた。

3. 評価項目および取り組み状況

評価分類		取り組み状況
保育の計画性	園の教育理念・教育方針の理解	園の教育理念や教育方針を常に理解し、教職員で話し合い園の目指す幼児の姿を具体的にイメージしながら日々の保育にあたっている。
	指導計画の作成	園の方針を指導計画や保育に生かし、教育・保育要領や幼児の実態等を元に考えて作成している。 長期の指導計画は毎年見直しを行い、また短期の指導計画は幼児の実態に常に対応できるような順応性のあるものにしていく。 総合的な活動ができるように考慮して作成している。 ○未満児の指導計画は月齢にあわせた個別の指導計画を作成している
	環境構成	指導計画に基づいて幼児が主体的に関わりたくなるようにまた安全面に考慮して環境構成をしている。

		<p>楽しい雰囲気の中で安定して遊びこめる、時間や環境の構成に努めている。</p> <p>季節の変化や、幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示を考えている。</p> <p>○園児が使用する玩具は、同じ学年でも月齢に合わせて使用する時期やセッティングの場所など考慮し、園児の発達段階に合わせて遊べる環境を作っている</p>
	保育と計画の評価と反省	<p>自分の保育の評価と反省を日々、保育日誌として記載し、毎月の職員会議で伝達、及び次月に向けての取り組みを伝える</p> <p>行事等に向けた制作物は、写真で記録を取り、内容が年齢、月齢にあっているか、制作物の材料・素材等の選別や使い方は適切であったかなど、検証を行っている</p>
保育の在り方 幼児への対応	健康と安全への配慮	<p>幼児の体調には常に気を配り、体調が悪そうな幼児には安静や検温など適切な処置を行い家庭に連絡を入れるようにしている。</p> <p>○未満児は検温を既定の時間に必ず行い記録し、体調管理を徹底する</p> <p>けがや事故には特に気を配り、危険が予測される場合は、幼児たちと一緒に見たり考えたりして気付かせるように配慮している。</p> <p>園内に危険な箇所がないか、遊具は安全か「安全点検チェックシート」を使って点検を行っている。</p> <p>感染状況等は、ほけんメールとして、保護者に配信している。また保護者には、「意見書」「登園届」の提出に理解をいただいている</p>
	幼児のみとりと理解	<p>一人ひとりの幼児をよく理解する為には、観察、予測、推察が大切であることを理解し、自分の一方的な感じ方や考え方で決め付けないよう心がけている。</p> <p>○毎月の職員会議で、個別配慮が必要な園児を保育教諭全員で共有している。</p>
	指導とかかわり	<p>園児にあわせて同じように動いたり同じ目線にたつてものを見つめたりするように心がけている。</p> <p>遊びの援助者であることを理解し幼児にヒントやアイデアをすぐに提供できるようにしている。</p> <p>園児のことについて常に保育教諭同士で話し合い、学年を超えて情報を共有している。</p> <p>土曜日の保育は、縦割り保育として、異年齢児とのかかわりを持てる機会を与えている</p>
教師としての資質	専門家としての	<p>保育教諭としての専門知識や技能を常に身に付けてい</p>

や能力・良識・適性	能力・良識・義務	けるよう年間を通しての研修や講習会に参加している。 良識ある社会人としての心がけを忘れない。 職員のしおりを作成し、飯原保育園の職員としてのあるべき姿を共通理解できるよう努めている。
	組織の一員としての在り方	保育教諭・栄養士・調理士・事務など職員全員でひとつのチームであることを意識している。
保護者への対応	情報の発信と受信	連絡帳を利用して、園児の様子を、写真などを通じて、伝わりやすいように配慮しながら、知らせている。また日々の様子について特記すべきことは必ずその日に連絡をとるようにしている。 ホームページやインスタグラム等の SNS で園での様子を配信している。 園だよりでは、写真を取り入れる、子どものつぶやきを入れるなど、わかりやすい情報公開に努めている。 保護者からご意見をいただいた場合は、まず謙虚にその話を聞き、内容によっては、職員全体で検討し、共通理解の上で対処している。
研修と研究		年間を通じて、保育協会・福岡市主催の研修会に参加し復命書の提出を持って自らの振り返りとしている 園内研修を設け、研修内容を教職員で共有し保育に生かせる工夫をするとともに、自らも「教える」ことによりさらに受けた研修を自らの知識として深く掘り下げることができている 研修後は復命書の作成を徹底している。 主幹保育教諭が他のクラスに入り、クラス担任の保育を見学、実際に指導して見せるなど、保育の内容が一人の保育教諭の主観にならないように、意見交換をし職員全員で保育の向上を図るとともに、全園児を共通理解できるように、園児の個性を共有する時間を取っている。

4. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
指導計画について	認定こども園3年目の次年度は、以上児のカリキュラムにスポットを当てて、見直しを計る。以上児の1年間のカリキュラムが、年齢に沿って進んでいるか、教育として必要な内容に絞られているか、また5歳児においては、小学校との連携がとれたカリキュラムになっているか等、スリム化を計り、内容、行事とともに再度構築を計る。
教師の資質指導向上にむけて	福岡市主催の研修会「魅力向上委員会」で職員の働き方改革の取り組みを学んだ。その研修を活かすべく、職員の働き方の見

	直しを計ることで、心技ともに更なる向上を目指す。また、子どもを真ん中に置いた、教職員同士のつながりをさらに強固なものになるように、情報交換、情報共有を密にするための取り組みをこれまでよりも、詳細にしていく。一人の保育者の意見に偏らない事、誰でも考えを提案できる環境を作ることで、より多くの学びを全員が取得し、園全体のレベルアップを計る
--	---

5 . 施設関係者評価結果について

ホームページ上に「結果報告書」を公開しています。

6 . 財務管理

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

7 . 本、自己評価結果について

ホームページ上に「結果報告書」を公開しています。

(資料1) 指導計画について

週案を立てて、日々の保育の反省を記載、一週間の保育計画の目標が達成できたを見直し、次週の保育につなげていく

未満児・以上児別の週案と保育日誌

以上児
日々の個別配慮について細かく記載

未満児
生活の中での成長内容を細かく記載

毎月記載する、個人カリキュラムと保育経過記録

個人カリキュラム

保育経過記録

年間指導計

年間指導計画を年度初めに会議で検討、立案する。その計画に沿って年間の保育を進めて行く。個別の記録は年度終わりに保育経過記録に沿って、個別の所見を記載して一人ひとりの年齢までに達成すべき保育が果たされているか、成長記録を記載する。

(資料2)職員の資質向)

今年度で、8名の保育教諭が、スキルアップ研修に参加し、正規職員の9割が4分野を取得することができた。



昨年に引き続き5S活動から+作法の6S活動へと、自分の所作の見直しをすることで、園児とのかかわりも、温かみを増すよう努力する



挨拶は「語先後礼」相手の顔を見て先に挨拶その後、おじぎをします。子ども達も毎日行っています。



見学の方や保護者の方など、ご案内するときの指先は、きちんと揃えます。



朝や帰りの挨拶は職員同士でも保護者の方へも、一度立ち止まってから挨拶をします。